4) ぶどう

(1) 防除法 (殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した10a当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病虫害名	防除適期	防 除 方 法	備 考
コガネムシ類成虫	7～8月	○ 成虫発生期に次の薬剤のいずれかを2500散布する。 スミチオン水和剤40	○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
フタテンヒメヨコバイ	7～8月	○ 幼虫発生期に次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤40	○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
ブドウスカシバ	5～6月	○ つるに食入した幼虫を刺殺する。 ○ 成虫発生期に次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤40	○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
ブドウトラカミキリ	越冬期 (12～3月) 発芽前 (4月) 7～8月	○ 越冬期及び育成期に幼虫を刺殺する。 ○ 剪定枝を焼却する。 ○ 次の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。 ガットキラー乳剤 ○ 次の薬剤を枝幹へ散布する。 スミチオン水和剤40	○ 枝梢内に幼虫で越冬し、幼虫食入部は黒変する。 ○ ぶどうでは対象種が特定されているので注意する。 ○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
トラカミキリムシ	越冬期 (12～3月) 発芽前 (4月)	○ 越冬期及び育成期に幼虫を刺殺する。 ○ 剪定枝を焼却する。 ○ 次の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。 サッチューコートS	○ 枝梢内に幼虫で越冬し、幼虫食入部は黒変する。 ○ ぶどうでは対象種が特定されているので注意する。